

古四王神社拝殿・御神像

四天王をまつる当社は、北向きの宝形造りで珍しい建物である。桁を支える舟肘木、軒を支える手挟、それに二斗束や組物などに特色がある。正面中央が葺戸、その両側が棧唐戸の併用である。当社は、四道將軍の東北征討と関連して考えられることから、拝殿（登り口にある）の中の御神像は、北方の守護神とされる多聞天たもんてんと思われる。風雨にさらされているが、顔面や腰のゆるやかなひねりなどに平安末の様式が見える。

所在地 慶徳町松舞家字馬坂 古四王神社



経壇

市内の西部を流れていた押切川（今は濁川に合流となり廢川）はたびたび氾濫を起こし、当地域の民家や田畑へ大きな被害を与えていた。これを鎮めるため、経文を埋め、塚を築いて自然災害から救われることを祈念したといわれている。

経壇は、高さ二メートル、周囲約五〇メートルの規模であるが、このような経壇や経塚が設けられた理由は、平安時代の後期、一一世紀の頃末法の世になると仏教が滅び、すべての経典が地上から姿を消すということから、経文を土中へ埋め、弥勒菩薩（多くの人々を救う仏）の出世するまで保存しようとしたということである。

普通、経壇や経塚は経文を経筒に納め、仏具などとともに埋めたものである。土に書いて焼いた経瓦や小石、貝などに書いた経石もあり、これらのまわりを石で囲み、ふた石を置き、古墳のように盛り土をしたものである。

所在地 喜多方 上町

